

第49回

足立区政に関する世論調査

2020(令和2)年8月実施

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／
健康／スポーツ・読書／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／
「孤立ゼロプロジェクト」など／協働・協創／区での取り組み

2021(令和3)年3月



はじめに

コロナに始まりコロナに暮れたといっても過言ではなかった令和2年。その渦中の8月に実施した「第49回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。調査にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

ステイホームや在宅勤務の影響があったのか、回収率は58.2%と前年比5.2ポイントのアップ。また、刑法犯認知件数の減少率に比較すると一昨年まで横這いだった「体感治安が良い」との回答割合も上昇し、過去最高の61.6%。

「令和元年度は区内の認知件数が戦後最少」と繰り返し広報したことの成果かもしれません。

昨年は「特別定額給付金」の支給という、これまで区が経験したことのない大規模かつ複雑な事業の実施があり、給付時期等で他の自治体との厳しい競争にもさらされました。そうした状況下にあって、「区政満足度」が前年から4.4ポイントアップし、現在の調査項目に変更以来、過去最高の66.5%の数字をいただけたことは、職員にとって何よりの励みとなります。

緊急事態宣言が関東1都3県に発出されるなど、まだまだ厳しい毎日が続きますが、今後もなお一層、区民の皆様のご期待にお応えすべく、本調査結果を最大限活用し、施策や事業をブラッシュアップしてまいります。

令和3年2月

足立区長 近藤やよい

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 調査地域	4
5 調査方法	5
6 回収結果	5
7 報告書の見方	7
8 標本構成	10
第 2 章 調査結果の要約	15
1 定住性	17
2 大震災などの災害への備え	18
3 洪水対策	20
4 区の情報発信のあり方	21
5 健康	22
6 スポーツ・読書	24
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	26
8 環境・地域活動	28
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	29
10 協働・協創	30
11 区の取り組み	31
第 3 章 調査結果の分析	39
1 定住性	41
（1）居住地域の評価	43
（2）居住地域評価の経年比較	58
（3）地域の暮らしやすさ	65
（4）特に暮らしにくいと感ずること	71
（5）定住意向	75
2 大震災などの災害への備え	83
（1）備蓄や防災用具などの用意	85
（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	89
（3）備蓄量	94
（4）災害発生時の水や食料の確保	100
（5）家具類の転倒・落下・移動防止対策	103
（6）対策をしていない理由	106
（7）地域の 3 種の避難場所とその意味の認知	109

(8) 避難場所の認知経路	116
(9) 大規模災害時の避難生活場所	118
(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	120
3 洪水対策	125
(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知	127
(2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定	131
(3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所	134
(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由	137
(5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処	140
4 区の情報発信のあり方	149
(1) 区の情報の入手手段	151
(2) 重要と考える区の情報	157
(3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況	161
(4) 区の情報が得られない理由	163
(5) 区の情報が得られない理由の詳細	165
5 健康	167
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	169
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	171
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況	174
(4) 1日野菜350g以上の摂取	176
(5) 体調や習慣	178
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	183
(7) 自身の健康状態について	186
(8) がん検診の受診状況	189
(9) 受けたがん検診の種類	191
(10) 感染症予防のための手洗いの実践状況	193
(11) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況	195
6 スポーツ・読書	197
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況	199
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	201
(3) 運動・スポーツを行っている場所	204
(4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ	207
(5) 東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること	209
(6) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無	212
(7) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動	214
(8) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ	217
(9) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	219
(10) 読書に関わる行動状況	221
(11) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由	223

7	ビューティフル・ウィンドウズ運動	225
	(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	227
	(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み	231
	(3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況	235
	(4) 治安が改善していることの認知	239
	(5) 居住地域の治安状況	242
	(6) 区内の治安が良いと感じる点	246
	(7) 区内の治安が悪いと感じる点	249
	(8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	253
	(9) 駐車時の鍵かけ状況	257
8	環境・地域活動	263
	(1) 環境のために心がけていること	265
	(2) 「食品ロス」という言葉の認知	268
	(3) 食品ロス削減のために心がけていること	270
	(4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	272
9	「孤立ゼロプロジェクト」など	279
	(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	281
	(2) 「地域包括支援センター」の認知状況	284
	(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	287
	(4) 協力意向がある活動内容	290
	(5) 「フレイル」の認知と予防活動の実践状況	292
	(6) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況	295
10	協働・協創	299
	(1) 「協創」の認知	301
	(2) 協働・協創の実践	303
	(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	304
11	区の取り組み	307
	(1) 満足度と重要度	309
	(2) 区政への区民意見の反映度	349
	(3) 区に対する気持ち	352
	(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）	375
	(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	379
	(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	385
第4章 使用した調査票		387

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ・読書
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 協働・協創
- (11) 区の取り組み

3 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満20歳以上の個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 令和2年8月19日(水)～9月11日(金) |
| (6) 調査機関 | (株) マーケティング・サービス |

4 調査地域

図1 地域区分図

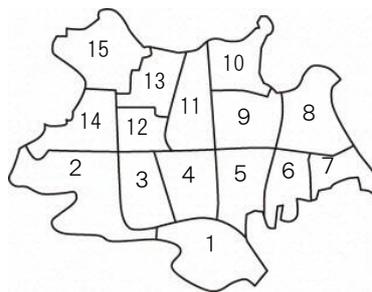


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地 区 町 丁 目 名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

6 回収結果

- (1) 標本数 3,000票
 (2) 有効回収数 1,746票 有効回収率 58.2%
 (3) 回収不能数 1,254票 回収不能率 41.8%

- (4) 地域別回収結果

表2 調査地域別回収結果

地域名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	584,626	100.0%	3,000票	1,746票	58.2%
第1地域	66,532	11.4	337	207	61.4
第2地域	41,346	7.1	213	133	62.4
第3地域	34,720	5.9	179	105	58.7
第4地域	50,216	8.6	259	154	59.5
第5地域	53,063	9.1	273	158	57.9
第6地域	38,196	6.5	197	120	60.9
第7地域	28,032	4.8	145	93	64.1
第8地域	47,208	8.1	243	137	56.4
第9地域	38,581	6.6	199	112	56.3
第10地域	27,537	4.7	142	80	56.3
第11地域	47,785	8.2	246	129	52.4
第12地域	24,391	4.2	126	73	57.9
第13地域	28,532	4.9	147	81	55.1
第14地域	31,684	5.4	163	93	57.1
第15地域	26,803	4.6	131	71	54.2

(20歳以上人口は令和2年7月1日現在)

第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,746票	58.2%
男性（計）	1,547	770	49.8
20 代	237	59	24.9
30 代	219	70	32.0
40 代	313	150	47.9
50 代	269	158	58.7
60 代	196	129	65.8
70歳以上	313	204	65.2
女性（計）	1,453	930	64.0
20 代	212	92	43.4
30 代	190	112	58.9
40 代	251	166	66.1
50 代	266	179	67.3
60 代	175	142	81.1
70歳以上	359	239	66.6
そ の 他		3	
無 回 答		43	

(注) この表での『その他』は、「性」の回答において、令和元年度より選択肢が新設追加された「その他」を選んだサンプルの数を掲載している。

(注) この表での『無回答』は「性」の回答がなかったサンプルの数を掲載している。なお、令和2年度調査では、「性」を回答していて「年代」を回答していないサンプルはみられなかった。(但し、「性」を回答しておらず、「年代」のみ回答している人は計9人あり、上記の表では『無回答』に含めている)

7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載とする。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問4の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「当分は住み続けたい」と答えた人は、1,746人のうち43.6%であった。

回答者数が1,746人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.34%であるから、「当分は住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の41.3%から45.9%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (足立区の20歳以上人口)

n = 比率算出の基数 (回答者数)

P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)

第1章 調査の概要

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,746	± 1.44	± 1.91	± 2.19	± 2.34	± 2.39
1,500	± 1.55	± 2.07	± 2.37	± 2.53	± 2.58
1,200	± 1.73	± 2.31	± 2.65	± 2.83	± 2.89
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,746	± 1.44	± 1.91	± 2.19	± 2.34	± 2.39
男性 (計)	770	± 2.16	± 2.88	± 3.30	± 3.53	± 3.60
20 代	59	± 7.81	±10.42	±11.93	±12.76	±13.02
30 代	70	± 7.17	± 9.56	±10.95	±11.71	±11.95
40 代	150	± 4.90	± 6.53	± 7.48	± 8.00	± 8.16
50 代	158	± 4.77	± 6.36	± 7.29	± 7.79	± 7.96
60 代	129	± 5.28	± 7.04	± 8.07	± 8.63	± 8.80
70歳以上	204	± 4.20	± 5.60	± 6.42	± 6.86	± 7.00
女性 (計)	930	± 1.97	± 2.62	± 3.01	± 3.21	± 3.28
20 代	92	± 6.26	± 8.34	± 9.56	±10.22	±10.43
30 代	112	± 5.67	± 7.56	± 8.66	± 9.26	± 9.45
40 代	166	± 4.66	± 6.21	± 7.11	± 7.60	± 7.76
50 代	179	± 4.48	± 5.98	± 6.85	± 7.32	± 7.47
60 代	142	± 5.04	± 6.71	± 7.69	± 8.22	± 8.39
70歳以上	239	± 3.88	± 5.17	± 5.93	± 6.34	± 6.47

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(9) 分類した項目の定義

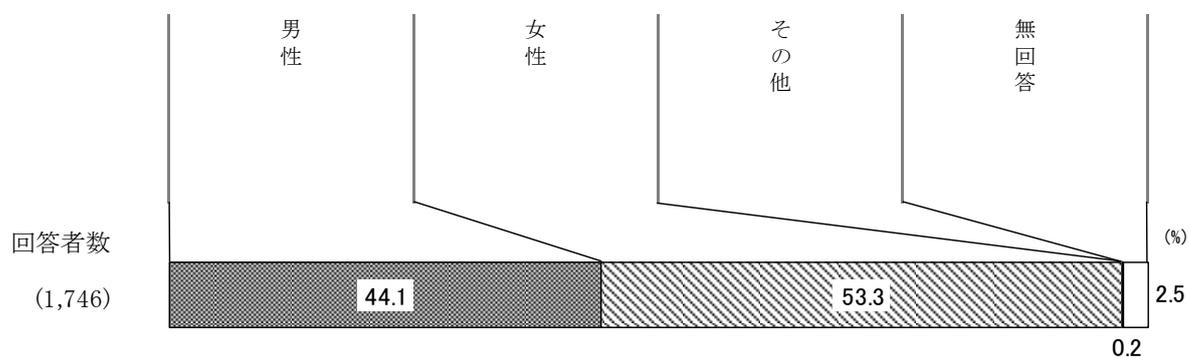
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域別 …… (15カテゴリー)
- ② 性別 …… (2カテゴリー) ※性別の「その他」は3サンプルのみ
だったので表側からは割愛した
- ③ 性・年代別 …… (12カテゴリー)
- ④ ライフステージ別 …… (7カテゴリー)
 - ・ 独身期 40歳未満の独身者
 - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
(家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
(家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
(一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
(夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
(その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
(壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
(壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別① …… (9カテゴリー)
- ⑥ エリアデザイン別② …… (2カテゴリー)
- ⑦ 住居形態別 …… (8カテゴリー)
- ⑧ 職業別 …… (8カテゴリー)
- ⑨ 就労(就学)場所別 …… (6カテゴリー)
- ⑩ 居住年数別 …… (6カテゴリー)

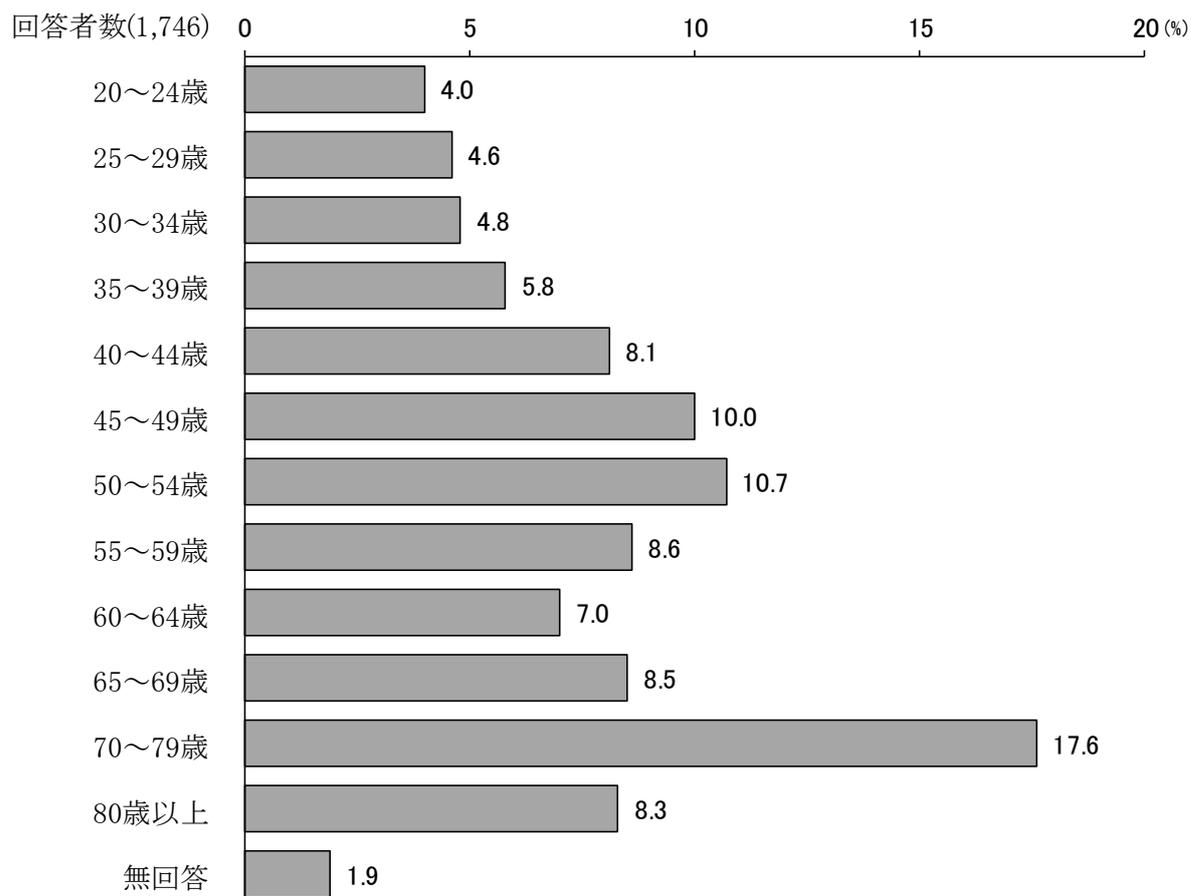
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

8 標本構成

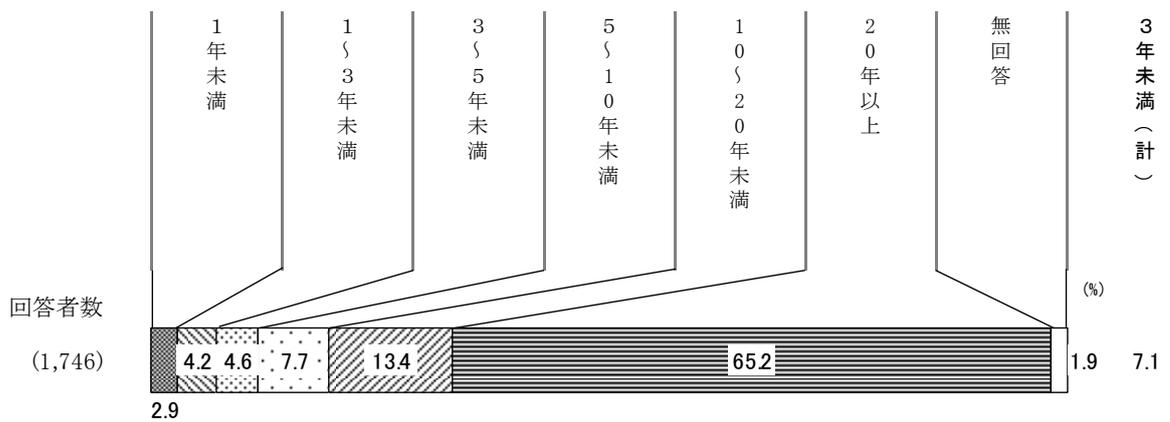
F 1 性別



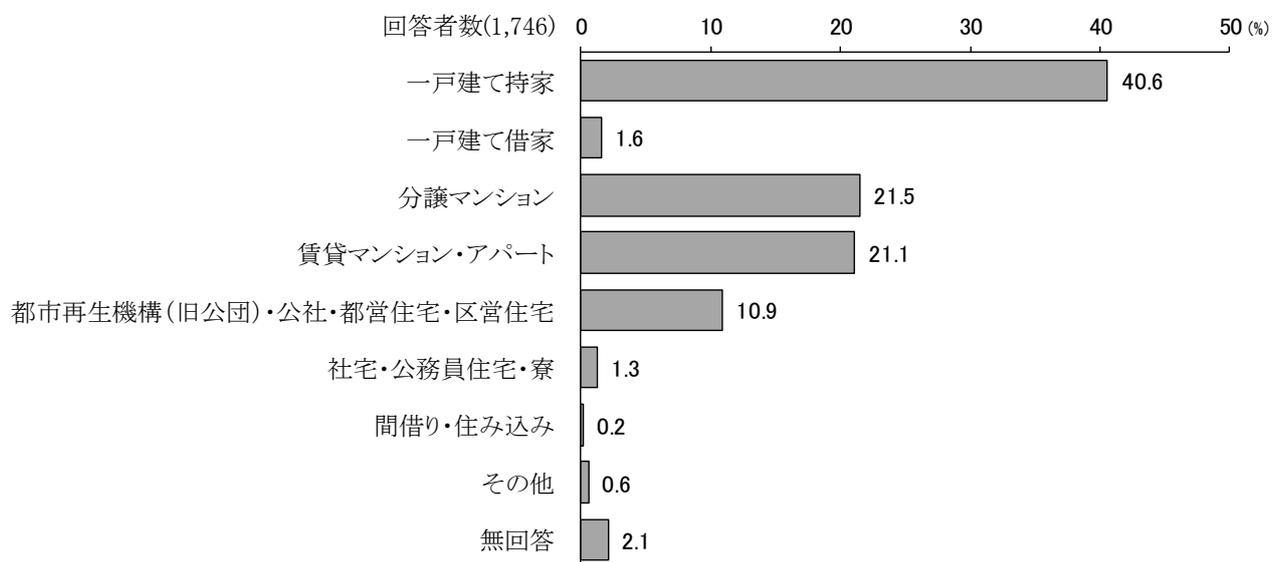
F 2 年齢



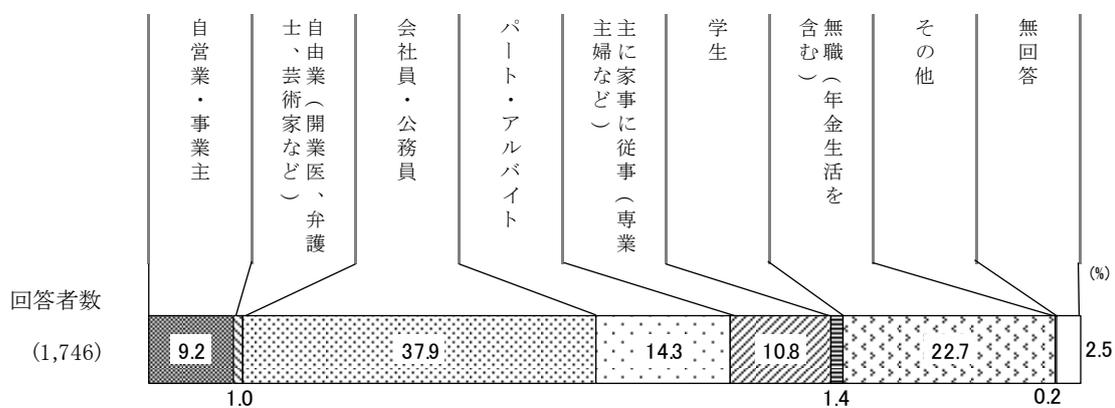
F 3 居住年数



F 4 住居形態

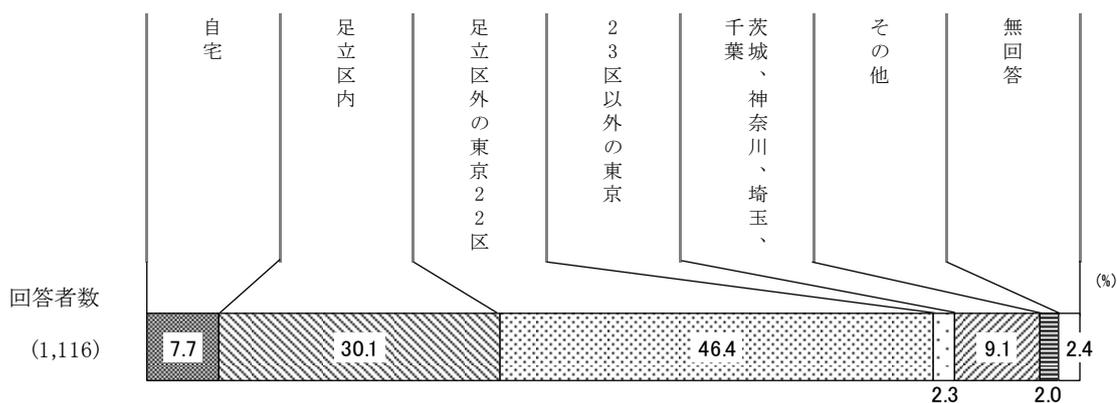


F 5 職業

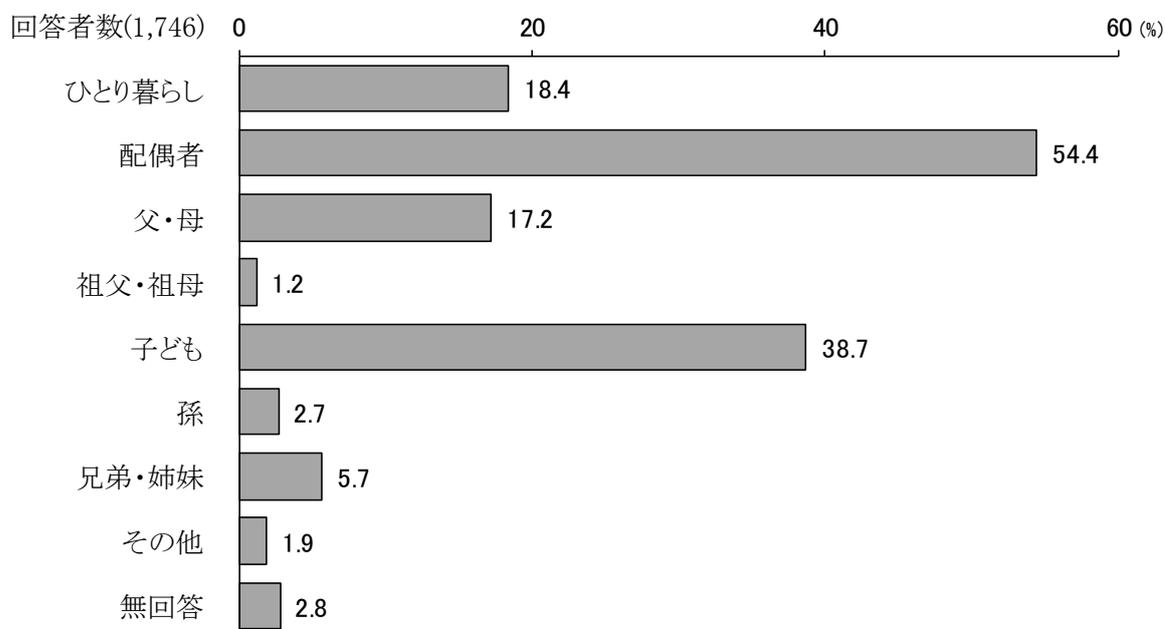


第1章 調査の概要

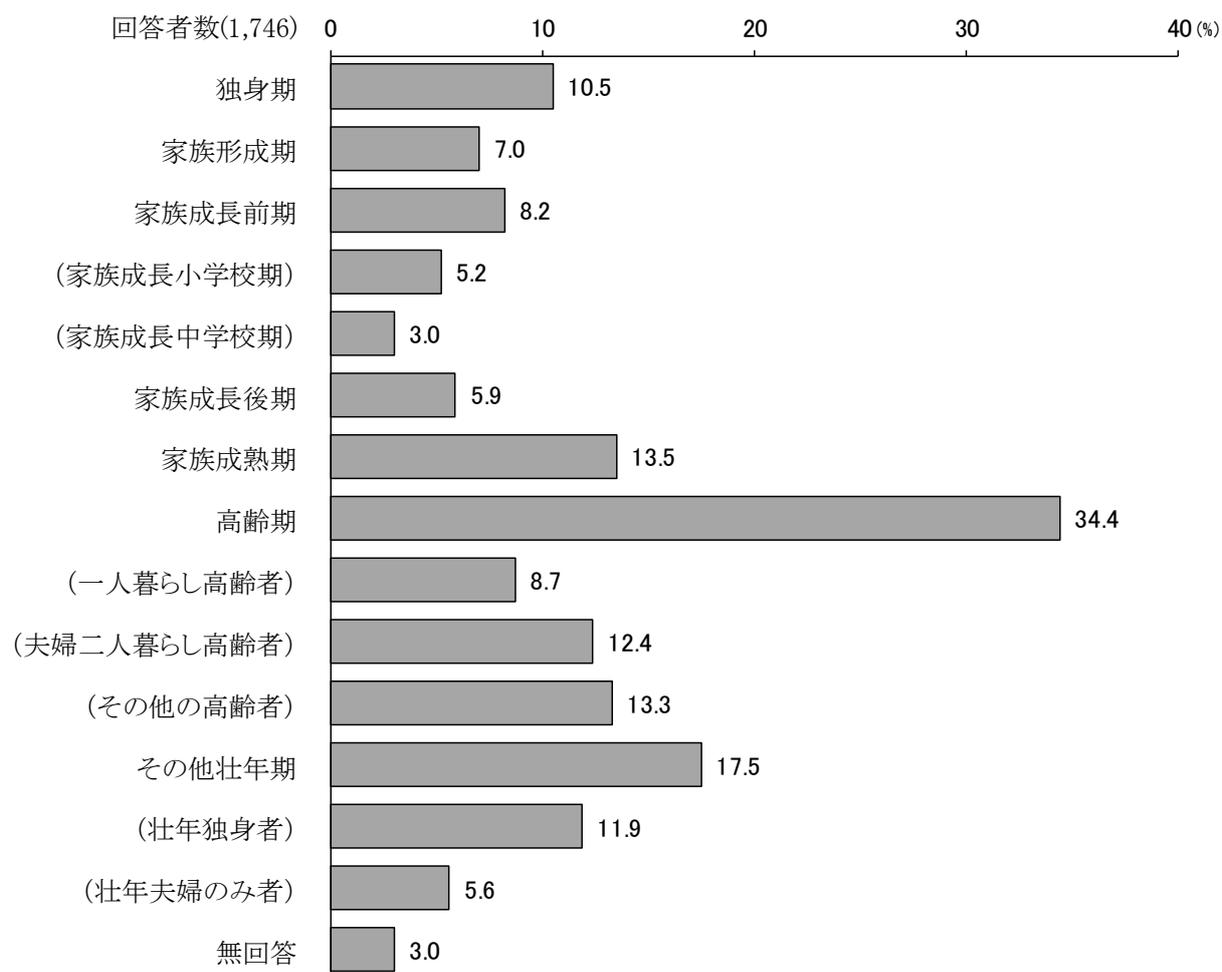
F 6 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】



F 7 同居家族（複数回答）



F8 ライフステージ



F9 エリアデザイン

